

芸陽

題字：本校書道教諭
坪井 宏(号 工鷹)先生書

第26回在京芸陽観音 同窓会のご案内

第26回在京芸陽観音同窓会を左記の通り開催いたします。

記

日 時 平成24年10月21日(日)

午前11時30分 受付開始

午前11時45分 同窓会開始(挨拶・事業報告・懇親会)

場 所 Y'sエステック情報ビル店・AGORA

〒160-10023

新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル4F

電話 03(5322)3545

アクセス JR新宿駅西口(駅より徒歩5分)

会 費 六千円

出席確認 同封の郵便振替用紙による振込みにより出席を確定

させていただきます。

尚、準備の都合上、振込期日は9月28日(金)とさ

せていただきます。

また、振込み後10月5日(金)までに出席取り消しを

ご連絡いただきましたら、会費は返金いたします。

その他 今回は、会費等の郵便振替用紙を広島二中卒ならび

に広島観音高校31回卒までの皆様、約600名の方

々にお送りしています。皆様の周りで、本会案内

と振込用紙が届いていない方がいらっしゃいました

ら、左記の同会副会長、懇親会幹事までご連絡くだ

さい。

折り返し案内と振込用紙を送らせていただきます。

クラスメイト、同期、部活仲間等皆様お誘いあわせ

の上ご参加ください。

在京芸陽観音同窓会

副会長 榎野 弘一(広島観音6回)

TEL 03(3633)5899

E-mail: makino-k@ab.auone-net.jp

今回当番幹事

内富 幸司(広島観音18回)

TEL 048(224)2034

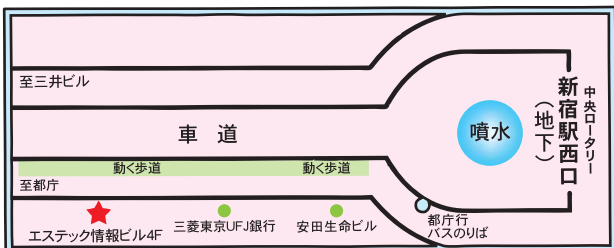
E-mail: kk.kawaguchi0727@smile.ocn.ne.jp

松本 清高(広島観音18回)

久保田裕二(広島観音18回)

AGORA案内図 TEL03(5322)3545

新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル4F



第25回在京芸陽観音同窓会開催報告

年当番幹事 清水暢之

(広島観音17回)

なかなか手のいなかつた年当番幹事を、クラス会仲間の永山成一君(観音17回)と引き受けることになり、前回の幹事団・理事各位からの引継ぎを受けた。以来、同窓会って何? どうすれば喜んで参加してもらえる? と考えることになった。観音17回卒の我々3年D組は、この10年で

広島での大塚憲郎先生をお呼びしてのクラス会を3回開催、在京クラス会は年に2、3回開いて十分に旧交を温めていた。従って、今まで同窓会とか、同期会について真剣に考えることはなかったと言っている。そこで早速『3年D組在京クラス会』を招集して相談。当然と言えば当然ながら、クラス、卒業期を越えた交流をはかれる場にしようということになった。そのためアイディアもなんとか絞り出した。

二中・観音卒という基盤は共有していてもほとんど初対面に近い。対面した時に名前、卒業期、趣味や近況などが直ぐに分かれれば話をするきっかけがつかめると考えた。そこ

でよくある名刺型の名札をやめて、卒業期、名前の下に短い自己紹介文を記載することにした。当然名刺型よりも大型になるので、縦長のカードを二つ折りにして胸ポケットに引っ掛けるタイプとした。また、出席者リストにもこの自己紹介文をすべて掲載して同窓会当日に配布することにした。プログラムについては、25年を経て必要かつ十分な内容が盛り込まれていると感じたので、少しだけ前年より伸びた持ち時間は全て交流に当てようと考えた。

さて、同窓会当日2011年10月15日、目覚めるとまるで台風かと思うような風雨である。しかし、ほぼ天気予報通り自宅を出るころには、風雨共にほぼ治まり青空さえのぞき始める。お蔭様で、当日の欠席は2名、当日の飛び入り1名で合計56名の参加者である。プログラムは小生の司会で例年通りスタートした。まず、この一年でお亡くなりになった会員4名の御霊に黙祷を捧げる。続いて、25年前にこの同窓会を二中同窓会として立ち上げ、観音も加えてひとつの同窓会とするにご尽力いただいた松本正理事(二中22回)にご挨拶、榎野弘二副会長(観音6回)に開会のご挨拶をお願いする。瀧山昇

事務局担当理事(観音9回)から、2010年度の会計報告と以下の三点に関する会則の改訂が提案され、満場一致で承認された。

- ① 初年度維持会費(年額三千円)を入会金(年額千円)に改める。
- ② 年維持費を年会費(年額千円)と改め、入会年度から納める。
- ③ 本部を事務局担当理事宅におくことを明記する。

続いて山木和雄先輩(観音3回)によるご挨拶、乾杯の音頭をもって、着席ビュッフェによる食事・歓談に入った。

さて、この食事・歓談の間が『卒業期を越えた交流』の目玉である。まず前半は当初の卒業期毎のテーブルセッティングのまままで今しばらく盛り上がりつつも、会場が若干狭いくらいの状態だったことも幸いして、結構な盛り上がりようである。

食事・歓談の時間が半ば進んだところで、司会から席を立てて他のテーブルに移動するよう案内する。何度か案内するが、賑やかに歓談されているため、案内が届いている気配がない。止むを得ず、配布した参加者リストの自己紹介文を見ながら、共通点のある参加者同士のマッチングを

試みたが依然反応が鈍い。最後の手として、司会がマイクを持って会場内を歩き、小生と参加者のマッチングを試みるも、参加者は席を立てて動く気配はない。いやでも時間は過ぎる。こちらの思惑通りとは言えなくても、賑やかに盛り上がりつつあるのだから、これでよしとしよう。そろそろ、プログラムも締めにかか

る時間である。齋藤敏文さん(観音23回)の広島県人会の活動案内、山上園子さん(観音30回)の合唱部OBの2012年8月5日の東京公演案内をお願いする。続いて校歌斉唱に移る。

まず、松本先輩が音頭を取って二中校歌斉唱。張りのある素晴らしい声に圧倒される。人数では圧倒的に多い観音組ながら、卒業以来校歌を歌ったことなどほとんどないと思

い、クラス会仲間の今城幸枝さん(旧姓繁村・観音17回)に音頭取りを頼んでおいてよかったと胸をなでおろす。山上さんをはじめとする合唱部OB・OGにもリードしてもらおうようお願いしていた。この合唱部OB・OGの皆さんのお蔭で二中校歌にも負けな

い素晴らしい校歌斉唱ができたと思う。最後の締めは、ここ数年続けてきて評判の高いエール交換である。前年に引き続き内富幸司さん(観音18回)に快く引き受けていただき、素晴らしいエール交換になった。閉会の挨拶は、同僚年幹事の永山成一君にお願いして締め

てもらった。必ずしも幹事の思惑通りには進行しなかったものの、十分に楽しい時間を過ごせたのではないかと思う。今までも何回も参加して顔見知りであった先輩諸氏、我々観音17回のように年幹事になって初めて参加したものの、皆等しく盛り上がり、楽しい時間を持てたように思う。二中・観音の歴史を共有していればこそであったと思う。ご参加いただいた皆様から感謝申し上げます。ありがとうございました。

年幹事を務めた観音17回卒組は、引き続き夕方から、神楽坂に場所を移して『在京同期会』を開催しました。実は神楽坂には我々のクラス会のたまり場があるのです。仕事の関係で同窓会には出席できなかった平岡伸三君(観音17回)が建築の仕事の傍ら『トンボロ』という喫茶店を開いているのです。観音17回3年D組の隠れ家というわけです。その平岡君が同窓会にも参加

できないで仕上げた開店前のレストランがこの日の会食場

所でした。オーブン前のピカピカの店をオーナーが提供してくれたというわけです。『同期会』と呼んだのは、いつものD組クラス仲間に加えて、この日は観音17回F組から大町美恵子さん(旧姓福川)と苗村のり子さん(旧姓田中)のお二人が参加してくれたからです。この日の仕上げはシエフが腕をふるった料理とおいしいワインでした。

「スピーチってえ 奴は…」

在京芸陽観音同窓会理事

松本 正(二中22回)

◆イグノーベル賞の授賞式でのスピーチは一分半を過ぎると白い紙ヒコキが飛んで来るそう。更に続けるとスピーチと共に壇上が紙ヒコキで真っ白に埋まるそう。「平和賞」を受け空前というスタンディングオベーションで迎えられたカラオケの井上大佑氏は友人からの提言を生かし、歌を歌って切り抜けたという。(大下英治著「カラオケを発明した男」)

◆一分半のスピーチ! 易しいようで難しいが、凝縮すればこの時間十分有りだって。女性のスカート同様短い方が

いいのは先刻承知。「寸鉄人を刺す」雄弁は銀、沈黙は金色々な諺が思い浮かぶが、挨拶で沈黙を通す訳にもいくまい。昨年の在京芸陽観音同窓会で開会の挨拶を務めた筆者は苦い思いを噛みしめた。恒例ではあるが「25回4半世紀の節目」とあって今回は格別意気込んだ。草稿は推敲を重ね、下読みでは7分を超す。長話は頭が悪い証拠だそうだから5分程に縮めなきゃと案じながら本番を迎えてしまった。メモを読むことだけは意地でもしたくない。冒頭で持ち上げようと考えていた先輩が入院で欠席と知って愕然! その件りを飛ばしたことから、あれも止めとこう、これも、と後は減裂の内に最終フレーズまでやってしまった。仲間にも聞くと「言うべき事は言い、同窓会への熱い期待が溢れていた」「アナウンサーや政治家みたいに見えるのが仕事じゃないんだから気にするな」有難いねえ、仲間は温かい! でも卓話の名人と称される人から学びたいものだ。

◆同窓会でのスピーチといえは忘れられない記憶がある。昭和62年の在京芸陽会旗揚げの際、乾杯の挨拶に立った二中1期の高橋伝之助先輩、大正11年の校舎はどこそこから始まり、寄宿舎の様子から何

科の誰々先生いつ何処でどう亡くなられたか・正に二中初期の歴史を事細かく綿々と約10分。この間満場は手にするビールが温まるのを我慢しながら辛抱したのだった。乾杯の音頭に非常識だとは言えない。永年たまりに溜まった母校への想いが堰を切って一挙に噴き出したのだろう。二中観音を問わず、集いには出てこなくとも、母校へのこんな想いを秘めている同窓は多いのではないのでしょうか。

東京スカイツリー の見える街

副会長 榎野 弘二 (広島観音6回)

第26回在京芸陽観音同窓会は10月21日(日)12時から新宿西口エステックビルのAGORAにて開催されるが、昨年の銀座に続き、今年は新宿といずれも新しい場所での会場設定となった。同窓会会員の皆様が今回の同窓会に積極的に参加され、盛況であろうことを期待している。

ところで、母校関連の動向をみると、母校は今年の4月の選抜高校野球大会21世紀枠候補校に選出され、1952年の選抜高校野球大会には出場し、初戦敗退の経緯もあり、



甲子園に出場するのかと期待したが、出場校にはならず残念であった。やはり、60年ぶりの快挙を成し遂げることはできなかった。

また、今年8月5日、母校の音楽部OB合唱団は、東京千駄ヶ谷の津田ホールでレクイエム「碑」など祈念コンサートを開催した。自慢ではないが、私は母校在学中に音楽部に属し、文化祭では合唱の指揮を執ったこともあり、取り上げた合唱曲は「ハレルヤコーラス」や「天地創造」といったクラシックの名曲だった。今回のコンサートは、期待したとおりに満場の拍手が鳴り止まずの好演で、多くの人々に感動を与えたと思う。また、座席の最後部で依頼されたコンサートの撮影をしたが、後輩たちの合唱を聴きながら涙を禁じえなかった。

話し変わって、今年のビッグニュースは、私の地元・墨田区に建設された東京スカイツリーの開業ではないかと思う。2008年7月に着工し、10年3月に東京タワーの33、

3mを超え、11年3月に「世界一高いタワー」である634mに達し、今年5月22日に商業施設と共に開業した。東京スカイツリーは、このところ暗い時勢の日本に明るい話題を伝えると共に、心柱、鉄骨、ゲイン塔、タワークレーン、そしてリフトアップ工法など、建設に発揮された日本の技術力の優秀さ技術水準の高さが多くの人々に感動を与えてくれたようだ。

ところで、私は東京スカイツリーの着工から完成までの記録を残そうと、同じ場所からの時間を経ての定点撮影や違った場所からのさまざまな東京スカイツリーを撮影した。一方、東京スカイツリーの建設を期に、移り変わり行く街並みを写真に残していこうと墨田区立すみだ郷土文化資料館は、2007年から2010年まで「あなたが選ぶすみだの風景100選」として写真募集した。

私はその写真コンテストの審査員を務めたが、東京スカイツリーの写真応募数は10年の募集で急増したものの、東京スカイツリーの完成が11年だったため、完成した東京スカイツリーの応募写真は見られなかった。とはいえ、入選一〇〇点のうち、建設過程のバリエーションに富む東京

※イグノーベル賞(イグノーベルしょう、英: Ig Nobel Prize)とは、「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に対して与えられる賞である。イグノーベル賞1991年に創設された。イグノーベルの名は、「ノーベル賞」に反語的な意味合いの接頭辞を加えたものじりであると共に、「卑劣な、あさましい」を意味する「ignoble」と掛けている。

スカイツリーの写真が18点も入選したことは、その人気ぶりを示したといえよう。ちなみに、私が好んで撮影した東京スカイツリーの写真は、①源森橋から撮影した東武鉄道の特急電車と屋形船のバックに聳え立つ東京スカイツリー、②十間橋から撮影した水面に移る逆さの東京スカイツリー、③浅草・隅田公園から撮影したアサヒビル本社ビルに投影された東京スカイツリー、④十間橋と西十間橋の間の路地裏から撮影した古い家屋とミスマッチの東京スカイツリー、そして⑤吾妻橋から撮影したライトアップされた東京スカイツリーなど。それらに加えて、いずれ近いうちに東京スカイツリーの展望台に登る機会があれば、展望台から望遠レンズによる遙か遠くまでの周囲の撮影、そして様々な場所から「粹と雅」によるライトアップされた東京スカイツリーの撮影を実現したいと思う。開業から8月1日まで72日間の東京スカイツリーへの来場者は、スカイツリー本体で百万人を達成した。日本が誇る伝統や粋な文化が息づく下町エリア。この街に誕生した東京スカイツリーは、東京の新しい国際観光のシンボルとなり、これから何を見せ、何をもたらし、どんな話

題やニュースを提供してくるのだろうか。

(写真撮影 槇野弘二)



おもいで

〜慰霊碑に想う〜

上杉 襄一 (二・中22回)

最近広島に帰るのは4〜5年に一度くらいになっているが、帰広した際は広島二中慰霊碑に詣でることになっている。最近では昨年四月私達の同期会二二会「80才を迎えての総会」に出席のため帰広した。会の前日帰広し平和大通りに面するホテルに投宿、平和記念公園、平和記念資料館、広島国際会議場を経て広島二中慰霊碑に詣でた。

慰霊碑には原爆に被爆犠牲になった広島二中教職員生徒約350名の氏名が刻まれているが、その内でも慰霊碑近くで建物疎開の作業に従事していた一年生321名と引率の先生4名の悲劇が格別強く思い出される。当時我々が一年生・二年生だった頃は数学

は数学の英語は英語の先生に授業を受けており、亡くなられた4人の先生の顔が鮮明に思い出される。又、我々三年生は8月3日・4日に同じ場所で作業に従事しており、ほんの2〜3日の違いで運命が別れたと思うと感無量の気持ちになります。私が詣でた時慰霊碑構内は清掃が行き届き、供花に囲まれており、台座に石川県の三年生一同と記してある「祈平和」と題した作文集が供えられていた。同窓会事務局を通して問い合わせた

処、観音高校卒業生有志から成る「広島二中慰霊碑保存会」の方々が碑の管理、清掃や捧げものをされた方々へのお礼状発信などのお世話をされていることを知りました。慰霊碑は広島国際会議場に最寄の場所にあり、修学旅行生たちが会場で映像を観たりお話しを聞いたりの前後に碑に立ち寄るのがコースになっているのかともうかがえました。慰霊碑は被爆犠牲者の鎮魂の願いと共に核兵器廃絶、平和祈念の道標の役も果たしていると感じました。

奇しくも本年7月・8月観音高校音楽部OB合唱団の祈念コンサート「レクイエム碑」が広島・東京で公演されることになり、その中の「混声合唱のためのレクイエム碑」は、

作詞 薄田 純一郎(広島二中20回卒) 作曲 森脇 憲三(広島二中8回卒)との事で薄田氏は広島テレビ放送在職中テレビドラマ碑(いしづみ)のプロデュースで又広島テレビ放送編「いしづみ」「広島二中一年生全滅の記録」の著者である事を知り感銘を受けた次第であります。

熱烈なカープファン

瀧山 昇 (広島観音9回)

終戦後の小学校の低学年の頃からプロ野球ファンである自分にとって、高校三年間広島に住んでいた時は、広島カープファンの応援の凄さにびっくりした。

自分は当初は猛烈なジャイアンツファンだった。娯楽が少なく、プロ野球の実況をラジオでよく聴いていた。そんな頃、巨人・南海戦で巨人の川上が9回裏2アウトから逆転サヨナラホームランを放つて、6対5で勝ったときには、嬉しくて部屋の中を小躍りして走り回ったのを憶えている。昭和25年にプロ野球が2リーグに分かれ、そのときセントラルリーグに広島カープと国鉄スワローズが誕生した。国鉄に勤務していた父親から、或る時「今度プロ野球に国鉄

スワローズができるぞ」といわれ、素直な少年は、当然のようにスワローズファンになった。

カープがどんな選手を集めて球団が作られたか知らないが、スワローズは当時ノンプロの都市対抗野球で活躍していた各地の鉄道管理局の選手を集めた、いわば「ノンプロ」であった。カープもおそらく同じような状態だったのだろう。その後長い間、両チームはセントラルリーグの最下位争いを続けていた。

昭和32年市民球場ができた。その直後に、父の秘書がスワローズ対カープのナイターに連れて行ってくれた。三塁側だった。ゲームの終盤になってカープの選手がタイムリーヒット打った。秘書の人は、周りの人と一緒に立ち上がった。歓声を上げて拍手をしていた。国鉄の職員は皆スワローズを応援するものと思っていたので、大変ショックを受けたのを記憶している。

それから半世紀以上経過した間に、プロ野球の環境は大きく変化し、姿を消した球団もあるがカープが存続しているという事は、熱烈なカープファンがいるからだろう。いつか新しいマツダスタジアムでプロ野球を観戦したいと思っている。

私の人生

荻本和利 (広島観音23回)

■育ての街、広島

中学二年の春、父の転勤で広島に移り住んだ。原爆から目覚しい復興を遂げた街、厳島はじめ瀬戸内海の島々、美味しい魚、ちよつと怖い感じもする力強い広島弁。人の勢いと自然の豊かさを肌で感じた。そして観音高校へ。なかなか成績の上がらなかった理数系学科、体育・音楽・美術は大好き、生徒会にもかかわり、良い仲間たちと語り遊び、思い通りにならない恋……。いろいろなこと空回りしながらも充実していた。

右往左往した浪人の後、美術大学のデザイン学科へ進む。何か新しい分野へとという思いで自分では満足した選択であったが、父は「美術大学でデザイン？なんじゃそれは」と合格に安心しながらも落胆していた。中学・高校の多感な時期を過ごした広島、そして妻との出会い（妻は基町高校出身の広島っ子）もあり、私にとって広島は「育ての街」である。

■50才半ばの転職も楽しい

大学卒業後、助手を五年務め、その後映像音響メーカーのデザイン部門に勤め、五四才の時に現在の環境・エネルギーコンサルティング会社に移った。

弊社E・I・エンジニアリングは、「おじさんベンチャー企業」である。自社開発のエネルギー関連のソフトを駆使し、コンサルティングとソフト販売を展開している。このツールはエネルギー設備の設計や運用に対して、省エネ・省コスト・節電・最適な設備運用、最適な設備更新計画などのシミュレーションを通して、案件をパソコン上でさまざまな視点から事前検討することができる。スマートコミュニティといわれるエネルギーの地産池消、最適な地域のエネルギーネットワーク構築にも役立つツールである。

50代半ばの転職は一大決心であったが、改めてチャレンジすることの重要性和爽快感を得た。デザインや物づくりとは違う「環境・地域」へ取り組むことができたことは嬉しい。



■いくつかのステージを持つこと

デザイナー仲間と数年前から「色」をテーマにした企画展「カラーパーティー」を開催している。展示やワークショップ、デザイントークなども企画し、これまで黄・赤・青・紫・橙・緑と取組み、次のテーマは白だ。ひとつの色がさまざまに解釈され表現される、毎回、他のメンバーの着眼や豊かな想像力に刺激を受ける。パーティーでは、その色にちなんだ飲み物食べ物を自作し、驚きと笑いの中、大いに盛り上がる。

このカラーパーティーには仕事とはまた違う人とのつながり、共同で企画を作り上げる面白さと達成感がある。若い人との中で無邪気になれる

時・場でもある。10代の時は自分の50代・60代は想像できなかった、したくなかった。そうやってしまった今、自分が持っているステージを充実させ、さらに面白くしていきたいと思う。

ホビー

「山登りを趣味として20年」

栗栖 正 (広島観音20回)

今年も夏のシーズンが近づいて来ました。

私が東京で暮らすようになって42年目を迎えています。山登りを趣味として始めたのは20年位前からです。

山登りを始めた動機は、子供のころからの憧れの山であった北アルプスの穂高岳に登りたいということでした。

私の山登りは、ロッククライミングとか雪山登山ということではなくハイキング程度

のもので、本格的な登山を趣味としている人から見れば遊びのようなものです。

山登り仲間と一緒に登り、すばらしい景色を眺めながら頂上で軽く一杯を飲むと、気分も爽快で、日頃のストレスも

一気に吹っ飛んでしまいます。また、下山後は温泉で疲れを癒して、山行の反省会をしながらかまた一杯。次回の山行の相談をしながら、また一杯。

日本には作家の深田久弥という人が名付けた百名山がありますが、昨年の山行を振り返って見ると、其の内の十二座登っていました。

北は青森県の岩木山・八甲田山で、南は四国の剣山です。百名山全てを登りきった中年

の人はたくさんいると思いますが、お金と暇がないので私の場合、今現在五十座ですが、冒頭に記述しました穂高岳ですが、西穂高岳・奥穂高岳・前穂高岳・北穂高岳と四つのピークがありますが、私は昨年西穂高岳に登りました。今年も奥穂高岳・前穂高岳に登る予定です。百名山全てに登る気持ちはありませんが、穂高岳の4つのピークには立ちたいと思っています。

今年も、1月から4月までは東京近郊の低山に月1から2回の割合で登りましたが、高尾山に登った際には、山頂の桜の木の下で、仲間と一緒に揚げた天ぷらを食べながらの花見酒は、最高の美味でした。



今年は何名山のエリアを北海道・九州まで拡大しようと思っています。既に5月には九州の阿蘇山(高岳・中岳)・祖母山・九重山(久住山・中岳)に登ってきました。花の季節には少し早かった感はありますが、ミヤマキリシマ、アケボノツツジは山一面に咲いているのは見られました。6月末には北海道の利尻山に登る予定です。

今年の夏山も、北海道から九州にかけて、百名山を中心に計画を立てていますが、その計画のために定年を過ぎても週4日の割合で働き続けています。

最後になります。仕事を辞めた時点でヨーロッパの4大名峰であるモンブラン・アイガー・ユングフラウ・マッターホルンを見ながらのトレッキングツアーに参加するために、こつこつと貯金をしている毎日です。

紫式部は美人だったか?

平塚 功 (広島観音3回)

源氏物語を一度読まれた方は平安貴族の光源氏が、その高い身分と美貌と教養を武器に沢山の女性と恋愛を行うという華麗なストーリーにまず驚かれるであろう。次いで読み進むうちに約千余年も前に、この書を著した紫式部は一体どんな女性だったろうかと想像するのではないだろうか。

私が現在受講している『源氏物語原文講座』については、以前この会報に書いた通り、講座全期間は15年余りであり、今春3年目の講座が、ようやく第6巻『末摘花(すえつむはな)』の巻にまで入った。折りしも講師は『末摘花』の主人公の姫君が、物語中の不美人例としては、最も過酷な描写、即ち、姫君の鼻が象の様に長くて先が赤いと表現した文を説明。その際、余談として『とこで物語の作者の紫式部自身は、美人だったでしょうかね』という質問を私たち10人の受講生に投げかけてきた。

源氏物語を専門に教えて何十年という老講師としては、

受講者全員に『もちろん美人だったでしょう』という答えを内心期待していたと思う。ところが出席した五・六十歳代8人の女性は、“難問”のためか誰一人として答えず、見かねた一人の男性が「私も美人だったと思います」とつぶやいた。そこで講師も我が意を得たごとくうなずいた。

さて、残った男性一人である私は、毎回の講座で徹底的に原文尊重主義を通す講師がこの問題に限っては、どの本にも書いてもないのに、何故『美女』と判断できたのかといぶかしく思った。

私は、講師の式部美女論は学者として往年のロマンであったらうと心情的に理解し善意に解釈することにした。

さて、現在、源氏絵の流れの中に紫式部が石山寺で物語りを執筆中の絵が多数残されており、『紫式部観月図』と名付けられている。これらは当時流行の細目で下ぶくれの顔の美女に描かれている。しかし、いづれも平安時代の作品ではないので、容姿は想像画である。いわんや、現代の映画、演劇や漫画では、現代風の優雅な美人として登場してそれなりにまわっている。

しかし、源氏物語は、登場人物のほぼ全員が最後には全く不幸な身に陥るような悲劇的な大作品である。従ってこれを書くような女性執筆者が、仮に、超美人であって、平安朝の宮中で、藤原一族の男性貴族達にちやほやされてたとしたら、作家として必要なドロドロとした男女関係のことを見聞きしたり、取材したり想像することは容易には出来なかつたと思う。何故なら源氏物語の中で、男性中心一夫多妻の社会制度を女性の立場から、密かに内心痛烈に批判しているのは式部自身であつたと考えられるからである。

恋愛体験などで異性にとられる余裕はなく孤独な文筆活動だつたと思う。

なお、式部の20代初婚説はあるが、『紫式部日記』によれば彼女は28歳頃に自分の親の年齢に近い40歳台の藤原宣孝と正式に結婚、第2夫人となつている。あなたがち晩婚だから不美人と決めつける訳にいかないのだが！

終わりに際して、私は紫式部が仮に不美人であつても、かえってそれが故に世界的超一流な長編作家になり得た一要因だと信じ尊敬している。

同期会

◆二中22期東京支部「傘寿記念で屋形船」

松本 正 (二中22期)

★とうとう我々の期、人生八十歳台に入った。22期だから「二二(にいにい)会」広島本部でも平成23年は傘寿記念総会と銘打った。東京支部でも負けじとばかりに企画したのが「横浜港周遊屋形船」♪



この企画は21年前の隅田川花見、先輩知人も交え大人数で盛り上がった以来のこと。

★中秋9月29日・晴。当初は希望者20名を越していたが、癌治療とぶつかる、伴侶を失う等々浮世の難儀に直面し、結局夫人同伴も入れ例年同様16名参加に落ち着いた。桜木町から漕ぎ出し、台風余波の心配もなく湾内をゆるゆる巡航、氷川丸を横目にランドマーク等を海面から眺めるのも乙なもの。網元自慢の獲りたて海鮮料理に飲み放題。さりとて飲み食いの量は若い頃程は参らぬのは残念ながら現実。★今回40年に及ぼう歴史を気張って総括する松本常任幹事の司会は、海風を肌で感じ船の揺れに身を任せながら移りゆく景色を愉しむ3時間の船遊びには些か耳障りだったかでも昔歌った♪カラオケ曲に敢えて挑戦、楽しく若さを取り戻した御仁もござった。

★この会はこの機に会員から寄稿を募り18名の玉稿を得て「傘寿の感慨」と題する1冊もまとめて配布した。厚労省算出の健康寿命（自立できて）は男70歳、女73歳とある。今回参加者はそれより10歳既

に元気に長生きしているわけ。老害と嫌がられないよう人生を楽しみたいものです。



「参加者」

- 山田康彦夫妻、千代原邦生、佐藤 旨孝、亀井 賢伍、上杉 襄一、岡田 隆、石丸 恵照、小栗 啓市、張間 妙子、林 浩、大本 竜敬、石川 利之、高木 恭之、そして松本 正夫妻で16名。

ネギの会
「傘寿で神戸に集う」

山木 和雄 (広島観音3回)

神戸は人にやさしい街だ。六甲に連なる美しい町並み、行き亘る清風は訪れる人々を温かく迎える。神戸人も実に人なつこい。大阪のドロ臭さ、京都の気取りにない、人との対応のスマートさ、それでいて相手の善悪を見分ける能力は慥かである。これは歴史的に偉人を受け入れ適応してきた賜かもしれない。回復力にも秀れ、10年前の震災の爪跡は、見事な迄に払拭されている。―この地にネギの会の傘寿旅行が決定された。

5月20日、メンバーの約半数が新神戸駅に集合、直ちに有馬温泉へ直行した。この年になると温泉の癒し湯が何よりの宝物である。人生の垢を流しようやくひとごちついたところで団欒の場に向かう。神戸牛に舌鼓を打ち、食後はカラオケのあるサロン室で寛ぐ。毎年広島で顔を合わせているのに皆の顔が若やいで見えるのは何故か。楽しい昔話はホルモンの分泌を促すのかもしれない。かくて第一夜は



楽しく更けた。

2日目のプランは今を盛りでの平清盛ブームに則り、ゆかりの地を散策し、メリケン波止場、ポルトタワー、異人館に灘の酒蔵を見て、六甲山頂を目指す8時間の行程である。青葉の笛ので有名な須磨寺、初対面となる清盛塚、清盛像、奈良、鎌倉と並ぶ兵庫大仏の能福寺等、初めて目にするゆかりの地は新鮮でメリケン波止場の磯の香は幼き日への郷愁を思い出させた。ポルトタワーから望む360度に亘る眺望は日本一の名に恥じない素晴らしさで災禍にもめげず毅然と立つその雄姿は神戸市民の誇りであった。異人館から見下ろす異国情豊かな神戸の町は、我々に時の経過を忘れさせた。灘のキキ酒で気分も高揚したところで一気に六甲山へ向かう。真夏の平均気温が北海道並みにさわやかなこの別天地は、古くから神戸市民の誇るべき一大メッカとなっている。千メートル近い

山頂からの眺めは、実に雄大ではるか遠く紀伊半島・淡路島が見渡せる。今、話題騒然の東京スカイツリーも、六甲の比ではない。僅か30分の行程で東京の軽井沢が実現するこの地、温泉も近い神戸を平清盛が愛し、遷都を夢見たのもなるほどと頷ける。夕日も迫る頃、一泊組7名を見送り最後の夜となる名門六甲山ホテルに向かう。皇族方の応訪もあったこの優雅でクラシカルなホテル。臨む神戸の夜景は、又格別で、運ばれたフランス料理を前に盡きせぬ話題で盛り上がった。皆の顔に溢れる若きエネルギーは次回来寿の再会を約すに充分と思えた。



★参加メンバー（敬称略）

茨木 幹夫、小浜美枝子、
嶋田 謙群、谷本 峰子、
坪井 崇、西尾 敏子、
平山 多秋、増田 秀雄、
平塚 功、松本 千明、
味埜 正明、山廣 恵、
横田 修治、山本 豊子、
山木 和雄

第25回東京ポプラの会〜軽井沢旅行

佐伯 陽子、森 勝和

(広島観音14回)

広島から遠く関東の地で高校卒業から50年（半世紀）が経過、この度、東京ポプラの会（観音14回同期会名）も第25回（平成元年以来）となりました。継続は美德なりといわれます。毎年新しい人が加わったりし、点から線となり大きくなつたり（絆）になって来ている。そろそろ、年齢的にも精神的にも落ち着いた環境にもなつてまいりましたので皆様のご意見にもより最近2年に一度は泊まりの計画をするようになりました。節目でもある今年には美味しい物でも食べ、ゆつくりした一時を持ち入りライブを味

わおうという企画で軽井沢泊計画をいたしました。広島や倉敷、名古屋からと総勢18名（女性7名、男性11名）と多数ご参加いただき大いに盛り上がりました。東急ハーベストに泊まり初日は近くの万平ホテル、三笠ホテル、聖パウロカソリック教会、雲場池やショー記念礼拝堂といった旧軽井沢地区を自転車ですりリングされたり、散策されたりと思いいいすごしていただきました。文学碑や音楽や美術館の関連施設はいろいろありますがこのたびは人数も多く団体行動は止め各自のんびりし自然と空間を味わうことを中心にさせていただきました。翌日はあいにくの雨になりましたが逆に新緑と霧に埋もれた静寂の軽井沢はまた違った趣があり都会の雑踏に慣れたわれわれに一時の安らぎを与えてくれたような気が致しました。苔に埋もれた別荘や新緑のシダが群生している白糸の滝周辺もなかなか良いものでした。大変若い人にも人気のある星野リゾートにもドライブしてみました。短い時間ではありましたが美味しいフランス料理を食べたり、温泉につかったり、25年前か



らの若かりし頃の写真を集めながら夜遅くまで和気あいあい楽しく語り合ったりと軽井沢を満喫することができました。最近では広島同期会や在京芸陽観音とも連携し情報交換しながらますます点から線へ輪が広がって来ています。平成元年のスタートからご尽力いただいた安井君、古田君には大変感謝していますとともに来年も元気で皆が集まり顔見せできることを願っています。

インフォメーション

祈念コンサート
東京公演を終えて

山上園子（広島観音30回）

8月5日（日）、東京・千駄ヶ谷の津田ホールにて、広島観音高等学校音楽部OB合唱団祈念コンサート東京公演が開催されました。このコンサートは、広島観音高等学校の前身である旧制広島第二中学校の当時一年生だった32人が、原子爆弾の犠牲になつた情景を書いた混声合唱のためのレクイエム「碑」を歌おうと、11年前に広島で始まったものです。そして今年、指揮者の益田遙先生の強い希望により、初めて東京でも演奏会を開催する運びとなりました。

津田ホールが小規模なホールといっても、東京で何の知名度もない合唱団のコンサートに何百名ものお客様に来ていただくことは、至難の業といふこともあり、在京芸陽観音同窓会のご協力を仰ぎ、当日は満席のお客様の前で歌うことができました。会場に足を運んでくださった同窓会の

皆様には厚くお礼申し上げます。

レクイエム「碑」を歌ううちに、合唱団員が作詞した詩に広島観音高等学校の同窓生である詩田尚昊先生に曲をつけていただいた合唱組曲「碑のねがい」が出来、さらに今年、去年の東日本大震災で大切な人を失った多くの方々の気持ちに寄り添って「きみの笑顔に寄り添って」という曲も作られました。8月5日当日の会場には作曲者の詩田先生もいらつしやうって、満場の拍手を受けられました。

アンコールの「故郷」と「世界に一つだけの花」で会場は、一体となり最後まで暖かい拍手をいただけたことを本当に嬉しく思いました。原爆投下から67年、戦争の記憶も薄れていく中、このコンサートを東京で開いて、果たしてどのような反応があるのか不安もありましたが、会場に来ていただいた皆さんには、私達合唱団の伝えたい思いが確かに伝わったと思います。

歌の力、音楽の力を信じて来年も7月28日（日）に広島で祈念コンサートを開催いたします。遠方ではございますが、これを機会にふるさと



広島には是非足をお運びください。お待ちしております。
(写真 榎野弘二撮影)

▼ショップ概要: 中央区銀座 1-6-10 銀座上一ビル <http://www.tau-hiroshima.jp/>

フロア	主な機能	主な内容
3F	ギャラリーイベント等	~広島の「宝」PR~ ● 広島のPRや広島ファンづくりにつながるイベントの開催や情報発信を展開 ● 店舗への誘客に向けたカフェの併設
2F	物販	~広島の伝統~ ● お好み焼き実演販売、日本酒、工芸品、カーブ・サンフレグッズ等の販売 ● 観光インフォメーション等
1F	物販	~瀬戸内の恵み~ ● ひろしまの海産物、野菜、スイーツ等の販売&テイクアウト → それぞれの商品に付加価値(植物性・希少性)を付与
B1	飲食	~洗練された「せとうち広島」~ ● 広島の素材を活用した料理やサービスを提供

7月16日(月)に広島ブランドショップがオープンしました。場所は銀座一丁目。地下1階地上3階で広島のPR、物産品の販売、もちろん広島カーブ・サンフレッチェグッズの販売もあります。是非見に行ってください。

広島ブランドショップ
7月16日 オープン!

	月日	コース	優勝	準優勝	第三位	ベストクロス
第42回	4月15日	新千葉CCあさぎり	石丸	大中	田中	石丸
		NET-S	72	76	78	92
第43回	6月13日	東京バーディーC	三宅	土居	森山	森山
		NET-S	67	70	74	83
第44回	9月30日	レイクウッド東コース	三宅	石丸	森	森山
		NET-S	63	69	69	83
第45回	11月10日	京葉 C C	三宅	土居	松本	森山
		NET-S	69	70	71	86

昨年(2010年)の4大会は、三宅氏(広島観音14回)の圧勝(3連覇の新記録)に終了しました。ハンディー修正後の4連覇に挑む今期に期待がかかります。愈々50回の節目を迎える今期は、4月のひととのやCC、5月千葉CC梅郷に加え7月のスカイウェイCC、10月裾野CC、11月平塚富士見CCと多様な舞台を用意しました。

2011年芸陽観音ゴルフ会

世話役 山木 和雄
(広島観音3回)



腕に覚えのある諸兄諸姉はまたとないチャレンジのチャンスですよ!
最後に4大会の実績と一昨年初優勝の古田様(昨年紙面の関係でコメント今回に持ち越し申し訳ありませんでした)のコメントと三宅氏の勝利宣言を掲載します。

「優勝者スピーチ」

(2010年4月12日 於本厚木CC)

古田 正雄 (広島観音14回)

毎回 山木先輩のご手配で素晴らしいコースでラウンド出来るのが本会の魅力です。

4月開催の本厚木カンツリークラブも名門で広々とした中にも落ちついた雰囲気のあるチャンピオンコースでした。生憎 雨の中のラウンドとなりましたが同期の今本さん、森さんを誘い、1年先輩の土居様と共にラウンドしました。皆様凄腕でバーディー、パーのラッシュのおかげさまで私もリズムのよいプレーが出来、オフイシャルHDCP25ですが久しぶりに100を切る99



で廻れて優勝の栄に浴しました。パートナーの皆様に感謝申しあげます。また松本大先輩の評判高き表彰状を頂き大変感激いたしました。



第42回優勝 石丸氏

2011年度
第43回・44回・45回
優勝者コメント

芸陽観音ゴルフ会に参加して2年、昨年は新参者のポーナスハンディのお陰か、まさかの3回連続優勝で自分でもびっくりでした。このゴルフ会は山木先輩の華麗なゴルフ歴と顔の広さで、バラエティに富んだゴルフ場巡りができて、楽しませてもらっています。これからも都合のつく限り参加したいと思しますので宜しくお願いします。

三宅 洋 (広島観音14回)



ゴルフリレー放談

高橋 滋 (広島観音4回)

ここ十数年の成績からは、およそゴルフを語るには最も不適任な私にバトンが回ってきました。初めてコースに出たのは43年前で「東松山CC」。82・74でG156。初めての景色と忙しいゴルフだったのを覚えています。それからスライスを武器(?)になんとか100に近づいた3年後、格別の理由もなく8年間のゴルフ冬眠に入りました。決してゴルフが嫌いではなく、身近にクラチャンの友人もいましたし、義父もH9なのでいつもゴルフの話題に囲まれていました。彼らのゴルフに対する姿勢を知るにつけ、生半可な対応は出来ないと思われ口実にして次第にゴルフから遠ざかったようです。

ところが8年後、急にゴルフを再開することになりました。客をゴルフ接待するつもりの上司の都合が悪くなり、代役探しに困ったあげくあるうことか私に「道具を持っていくのならヨシ!」と業務命令(?)を出しました。改めて道具を出してみると、革のグリップは黴だらけ、アイアンも錆、おまけに練習は一夜漬けでしたが「スリーハンドレッドクラブ」で旧知の客の相手を無事に務めることが出来ました。8年振りのスコアは64・53・60。私にとっては上出来で、これなら何とかやれそうとゴルフを再開するきっかけになりました。

でも、なんとか100が切れだすとベリア方式のお陰で見事な社長杯など3個の優勝杯が部屋を飾ることになりました。その頃の多彩なつながりから出来た多彩な仲間達は20年、30年を経た現在も毎回それぞれのコンペで元気な顔を見せてくれます。

そんな私のゴルフに異変(?)が起きました。60歳定年で「サnder毎日」となったので、さっそく夢(?)の平日ゴルフを始めました。毎回、未知のパートナーとプレーするのは適当な緊張もあり、まずまずのスコアでしたが、もっと上手くなろうとスポーツクラブの網の中で無料のボールを打つことにしました。それが原因とは思えないのですが、その後のコンペではBBやBBメーカーが私の定位置となりました。その頃、山木先輩に誘われて観音ゴルフの仲間入りをさせていただきましたがその後の成績は語るに値しません。いつでも優勝が出来そうな超法規(?)の今のハンデを生かさないと、消費税引き上げならぬハンデ見直しの切り下げをされそうです。先日も他のコンペ(35名)で最年長でBBメーカーの私がニヤピン賞を獲っておおいに颯颯(?)を買いました。

次は、ゴルフに造詣の深い石丸大先輩にバトンをお渡しいたします。

それから熱心には練習せず、コースには月1、2回、身近の仲間やいろんな集まりの仲間と楽しんでいました。嫌がりもせず、下手な私と回るパートナーはペースを乱されたことでしょうか。それ

在京芸陽観音同窓会 2010年度決算報告書(単位:円)		2011年3月31日	
前年度繰越	406,157		
収入の部			
総会費	342,000	57名	
初年度維持会費	66,000	22口	
年維持会費	164,000	1年分164口	
	42,000	2年分 21口	
	21,000	3年分 7口	
寄附	18,500		
計	653,500		
支出の部			
総会関連費用	347,310		
会報印刷費	170,100		
振替手数料	31,870		
郵送費	55,040		
打合せ費用	69,225		
払い戻し	6,000		
その他	54,530	(注)	
計	734,075		
次期繰越金	325,582	(前年度)	379,938
内訳			
普通預金	12,264	(2,246)
振替口座	293,270	(350,510)
現金	20,048	(53,410)
(注)その他			
複写・用紙代	1,948		
ファックス代	1,780		
封筒印刷代	10,500		
振替用紙印刷代	1,100		
写真代、謝礼	8,302		
会議室料他	30,900		
計	54,530		

以上 相違ありません
観音10回卒幹事 三原孝彦

平成23年度会費納入者名簿

(敬称略)

二中 東京都

回 氏名

- 12 伊藤 得平
- 13 植花 武
- 15 田中 正己
- 17 胡子 英幸
- 17 川崎 利秋
- 18 三宅 紳童
- 20 武田 晴児
- 20 榎田 辰昭
- 21 小田 盛斗
- 22 末岡 恒美
- 22 湊 徳夫
- 23 伊藤 司
- 23 平本 善一

二中 神奈川県

- 21 塚川 知
- 21 古谷 峻太郎
- 22 上杉 襄一
- 22 亀井 賢伍
- 22 松本 正
- 23 中神 義三

二中 千葉県

- 22 石丸 恵照
- 22 千代原 邦生

二中 埼玉県

- 20 牧尾 良典
- 25 佐々木 義隆

観音 東京都

回 氏名

- 3 矢沢 朝乃
- 3 榎田 美保子
- 3 蒔田 尚昊
- 3 磯崎 英子
- 3 眼籠 朋子
- 3 大谷 末子
- 3 竹本 すみ子
- 3 山木 和雄
- 3 高田 昭一郎
- 3 山本 剛也
- 4 桜井 弘子
- 5 吉良 正志
- 6 今坂 譲
- 6 榎野 弘二
- 6 田中 千鶴子
- 6 織田 好江
- 7 牧野 俊美
- 7 齋木 勝司
- 9 百武 妙子
- 10 三原 孝彦
- 10 福尾 政道
- 11 岩崎 格
- 11 浮田 萌男
- 11 藤井 明
- 11 中村 洋一郎
- 12 堂免 清美
- 13 谷本 多徳
- 13 岩崎 千鶴子
- 13 土居 将憲
- 14 森 勝和
- 14 梶谷 久美子
- 14 望月 雅子
- 15 有田 進治
- 15 西山 史朗
- 15 新谷 恵彦
- 16 浅井 慶子
- 16 片田 元己
- 16 野村 昌弘
- 16 熊田 一義
- 16 今田 浩子
- 16 大城 守雄
- 16 高木 香代子
- 17 今城 幸枝
- 18 長谷川 美弥子
- 20 串山 絹恵
- 20 栗栖 正
- 20 松本 直和
- 20 中村 敏樹
- 20 山本 由美子
- 20 齐藤 登
- 20 森山 康三
- 20 黒田 美和子
- 20 掛水 通子
- 20 大歳 文雄
- 20 佐藤 洋子
- 20 小豆原 博子
- 22 田中 光晴
- 23 齋藤 敏文
- 23 千川 一司

観音 東京都

回 氏名

- 23 蒔村 三枝子
- 24 太田 信三
- 25 国行 薫
- 25 藤井 高文
- 25 吉岡 豊
- 26 藤近 直也
- 30 榎原 政博
- 31 三谷 啓子

観音 神奈川県

- 1 國廣 寛子
- 2 宅明 多聞
- 3 山本 豊子
- 3 平塚 功
- 3 堂元 一男
- 3 森政 忠雄
- 4 六岡 翠
- 4 橋本 三千司
- 5 清水 幸浩
- 6 三瀬 和夫
- 6 中原 壽子
- 6 平田 博義
- 7 柳田 陽子
- 7 寺本 昇
- 8 宇都宮 浩三
- 8 山田 明
- 9 中原 慈枝
- 9 越間 建二
- 9 瀧山 昇
- 9 山野 真純
- 9 渡部 亮一
- 10 山根 華子
- 10 平賀 源太郎
- 10 高木 明子
- 11 松田 孝子
- 11 森脇 峻一郎
- 13 小林 信博
- 13 山野 日出子
- 14 中崎 舒弘
- 14 三宅 洋
- 14 古田 正雄
- 14 佐伯 陽子
- 15 小脇 敏子
- 16 沖野 正則
- 16 岡本 正行
- 17 清水 暢之
- 17 蔵岡 紀美子
- 19 中尾 真澄
- 19 永田 洋水
- 20 升田 和一
- 20 松原 邦雄
- 20 竹森 裕子
- 20 志和木 薫
- 20 羽場 博則
- 20 田中 義一
- 22 叶谷 英治
- 23 山田 弘治
- 26 齐藤 充子
- 26 中村 能章

観音 埼玉県

回 氏名

- 6 浜田 光江
- 6 藤田 尚美
- 7 中野 春美
- 11 武藤 達
- 11 後藤 幸子
- 11 田中 秀穂
- 13 杉本 俊男
- 14 佐伯 博行
- 15 奈良原 章子
- 18 久保田 裕二
- 18 内富 幸司
- 20 富岡 和隆
- 20 藤原 美岐子
- 20 升野 和江
- 20 倉成 由美子
- 22 福田 みどり

観音 千葉県

- 3 伊藤 俊彦
- 4 安藤 幸代
- 7 宮川 京子
- 9 渡辺 敏章
- 9 立川 妙子
- 9 仁賀木 寿子
- 9 丹下 容子
- 10 井上 佳子
- 10 岡崎 巖
- 10 古城 保枝
- 11 木場 照美
- 11 世良 宣義
- 12 島田 拓史
- 14 今本 智行
- 17 中田 君子
- 17 永山 成一
- 17 香藤 繁常
- 18 和田 真
- 18 大中 進
- 20 伊藤 清登
- 23 小川 幸枝
- 23 阪井 忠義
- 23 脇田 直
- 24 池田 利行
- 24 入矢 桂史郎
- 25 延近 保生
- 26 八塚 英嗣
- 27 井上 由理

観音 他 県

- 9 長松 宏
- 10 坂口 典子
- 14 藤谷 十一

新規会員

観音 東京都

回 氏名

- 6 尾本 照子
- 17 岡本 義次
- 17 苗村 のり子
- 18 角 隆
- 23 藤川 優子
- 30 橋本 篤範
- 30 小林 綾
- 30 山上 園子

観音 千葉県

- 6 遠藤 淑子

観音 埼玉県

- 12 久保田 三紀男
- 17 原田 幸子
- 18 清水 純

※以下の方に寄付を
頂きました

観音 東京都

- 3 山木 和雄

会費納入について事務局からのお願い

平成23年の第25回の総会において、当同窓会の会費に関する規則が改訂されました。今年度から入会金が1,000円となり、また、初年度から年会費をお納め頂くようになりました。従って、新しく入会される方は、入会金と年会費を合わせて2,000円をお納めください。年会費は1,000円で変更ありません。

既に入会されている方で、平成22年度以降の会費を未納の方は、3年分の3,000円を、平成23年度の会費を未納の方は2年分の2,000円を、お納めくださいますようお願いいたします。

各位の会費納入状況に合わせた払込取扱票を同封しましたが、もし納入状況と異なる払込取扱票が入っていましたら、事務局までご連絡ください。

また、会費および総会費の払込の際は、なるべく**自動払込機(ATM)**をご利用いただきたくお願いいたします。窓口で払込みますと、手数料が**120円**かかりますが、**自動払込機(ATM)**ですと**80円**で済みます。振込機の音声案内に従って簡単に振込めます。

事務局：瀧山 昇／電話：045-983-5992

◆編集後記◆

松本 直和（広島観音20回）

今年の会報にも二中22回の松本先輩を始め多数の方から寄稿を頂き、在京芸陽観音同窓会が多く在京同窓生のご支援に支えられていることに感謝申し上げ、併せてわずかも同窓生の情報交換のお役に立てていることをうれしく思います。10月21日の在京芸陽観音同窓会総会が盛会で多数の同窓生が元気な様子を交換し合うことを期待します。

ロンドン五輪では日本選手へのTV応援に寝不足の日が続きました。また一方では、昨年の3・11を契機に原発問題、被害補償、さらにはユーロ危機等々問題を引きずつており、気持ちが悪くなる昨今です。社会保障と税の一体改革も期待を裏切るばかりです。私事ですが、昨年来、母が認知症を患い家族で介護が必要な状況となり、特に社会保障には大きな期待がありました。この先民主党政権の動向をよく注視し、国民の権利を訴える機会にはよく考えて行動する必要があります。8月5日(日)に広島観音

広告掲載のご案内

このたび在京芸陽会会報誌に、企業、グループ、個人の広告を掲載することになりました。掲載料は、一広告一万円～でお願いします。ご協力いただける方は、当会理事までご連絡ください。

高校合唱部OB合唱団の祈念コンサートを観賞しました。益田遙先生をはじめOB諸氏の元気な活動を素晴らしいと思いました。益田先生これからもお元気で活躍をお祈りします。

来年も皆元気で明るい年を期待し、本会報にも皆様のご協力とお元気な様子をお伝えできることを期待します。

感動の誌面づくりをお手伝い。

<https://www.media-you.com>

学校PTA 広報誌・同窓会報・会社広報
パンフレット・チラシ・封筒・カラー名刺
のデザイン・制作・きれいな印刷

有限会社 **メディアユー** 担当/浦野 政博
〒121-0813 東京都足立区竹の塚3丁目16番6号
TEL 050-3580-8178 FAX 03-5686-0232

横浜市原爆被災者の会
(浜友の会)

松本 正



事務所 〒245-0053
横浜市戸塚区上矢部町 315
TEL/FAX 045-814-2914